# 2023年度
# 柔道整復科
# Ⅰ部2年
# シラバス

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 【分野】 | 専門基礎分野　人体の構造と機能 | | | | |
| 【科目】 | 人体構造学Ⅱ | | | | |
| 【基本情報】 | | | | | |
| 配当年次 | 2 | 学年 | 担当教員 | 河田　晋一／高橋　光生 | |
| 単位数 | 4 | 単位 | | | |
| 開講学期 | 通年 | | 授業形態・回数 | 講義 | 40回 |
| 【授業情報】 | | | | | |
| 授業概要 | 医学、及び柔道整復を修得するための基礎として、人体について構造と機能を理解し、考察できる能力を身につける。柔道整復を修得するための基礎として、柔道整復に必要な四肢及び体幹の骨、関節、筋の構造を理解し、考察できる能力を身につける。 | | | | |
| 授業の一般目標（GIO） | 解剖学への興味と学ぶ必要性を理解し内臓系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系の構造を系統的に理解する。内臓学が主体となるが形態と機能を結びつけて解剖学を動的に理解する。運動器の構造及び体表から触れられる骨の突起部、筋の位置関係について理解する。柔道整復に必要な四肢の骨、関節、筋の構造を理解する。各々の関節の運動と、その運動に関与する筋が解る。また四肢を支配する末梢神経の支配領域が理解する。 | | | | |
| 【担当教員から】 | | | | | |
| 教科書 | 「解剖学」 改訂第2版 （社）全国柔道整復学校協会 （株）医歯薬出版 | | | | |
| 参考書 | 人体系統解剖学（南山堂）吉川文雄著　スネル　－臨床解剖学－ | | | | |
| 成績評価基準 | 評価の観点は1）授業の理解と表現　2）知識の浸透度と理解度とし、学期末に行う期末試験で評価する。<br>授業の理解度を評価するために、学期末ごとに課題を提出させ評価する。<br>各学期末試験は記述試験<br>課題は各学期末試験範囲のレポート | | | | |
| 成績評価方法 | 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案 して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。<br><br>成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。<br>（1）A：100～90点 （2）B： 89～70点 （3）C： 69～60点 （4）D： 60点未満 | | | | |
| 授業時間外に必要な学修 | 教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと | | | | |
| 履修にあたっての留意点 | 解剖学は正常の人体における構造を学ぶ学問です。外傷や疾病などの治療を行うためには、人体の「正常な構造や位置」などを理解していなけば異常を見つけることは出来ません。<br>構造をしっかりとイメージ出来るように身につけていきましょう。教科書を中心に使用して、各組織や器官の形態や走行をレポートでまとめること。 | | | | |

【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標(SBOs) | 講義形態 |
|---|---|---|---|---|
| 1期 | 1 | 内臓系の種類と構成臓器 | 消化器系臓器の名称と各臓器の解剖学的な位置を説明できる。<br>消化器系の構成臓器の位置関係を知り、連続的なつながりを説明できる。<br>各臓器の形態を説明できる。<br>各臓器の消化管壁の構造が機能に適応していることを説明できる。<br>肝臓、膵臓などの実質臓器の構造と位置関係を説明できる。<br>実質臓器の機能の概略を説明できる。 | 講義 |
| | 2 | 口腔の構造 | | 講義 |
| | 3 | 食道、咽頭の構造 | | 講義 |
| | 4 | 胃、十二指腸の構造と形態 | | 講義 |
| | 5 | 空腸、回腸の構造と形態 | | 講義 |
| | 6 | 大腸と肛門の構造と形態 | | 講義 |
| | 7 | 肝臓の位置、構造と形態 | | 講義 |
| | 8 | 肝臓、膵臓、腸管の連絡 | | 講義 |
| | 9 | 膵臓の構造と形態 | | 講義 |
| | 10 | 試験 | | |
| 1期 | 11 | 上肢の骨・関節の構造 | 柔道整復に必要な上肢の骨、関節、筋の構造を述べることができる。 | 講義 |
| | 12 | 上肢の骨・関節の構造 | | 講義 |
| | 13 | 上肢の骨格筋・支配神経 | 上肢の各関節運動とその運動に関与する筋及び支配神経を述べることができる。 | 講義 |
| | 14 | 上肢の骨格筋・支配神経 | | 講義 |
| | 15 | 下肢の骨・関節の構造 | 柔道整復に必要な下肢の骨、関節、筋の構造を述べることができる。 | 講義 |
| | 16 | 下肢の骨・関節の構造 | | 講義 |
| | 17 | 下肢の骨格筋・支配神経 | 下肢の各関節運動とその運動に関与する筋及び支配神経を述べることができる。 | 講義 |
| | 18 | 下肢の骨格筋・支配神経 | | 講義 |
| | 19 | 顎関節・咀嚼筋の作用 | 顎関節の構成と運動作用、関与する筋、<br>支配神経を述べることができる。 | 講義 |
| | 20 | 試験 | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 2期 | 21 | 鼻腔・喉頭の構造と形態 | 呼吸器系臓器の名称と機能を説明できる。<br>各臓器の解剖学的な位置を説明できる。<br>呼吸器の構成臓器の位置関係を知り、連続的なつながりを説明できる。<br>各臓器の構造を説明できる。<br>各臓器の機能の概略を説明できる。 | 講義 |
| | 22 | 気管の構造と形態 | | 講義 |
| | 23 | 気管支の構造と形態 | | 講義 |
| | 24 | 肺の構造と形態 | | 講義 |
| | 25 | 胸膜・縦隔の構造と形態 | | 講義 |
| | 26 | 腎臓の位置、構造と形態 | 泌尿器系の構成臓器のつながりと機能の概略を説明できる。<br>各臓器の構造を説明できる。<br>腎、膀胱の構造が機能に適応していることを説明できる。 | 講義 |
| | 27 | 腎実質の微細構造 | | 講義 |
| | 28 | 男性尿路の構成と構造 | | 講義 |
| | 29 | 女性尿路の構成と構造 | | 講義 |
| | 30 | 試験 | | |
| 3期 | 31 | 男性生殖器の構成と構造 | 泌尿器と生殖器系のつながりと機能の概略を説明できる。<br>各臓器の構造を説明できる。<br>胎盤と胎児循環とのつながりと構成を説明できる。 | 講義 |
| | 32 | 男性生殖器の構成と構造 | | 講義 |
| | 33 | 女性の生殖器の構成と構造 | | 講義 |
| | 34 | 女性の生殖器の構成と構造 / 胎盤、胎児循環 | | 講義 |
| | 35 | 下垂体・松果体 | 内分泌系の構成臓器の名称を説明できる。<br>解剖学的位置を説明できる。<br>各臓器の機能の概略を説明できる。<br>臓器の内景を理解し、機能との関連を説明できる。 | 講義 |
| | 36 | 甲状腺・上皮小体 | | 講義 |
| | 37 | 副腎 | | 講義 |
| | 38 | 膵臓 | | 講義 |
| | 39 | 性腺 | | 講義 |
| | 40 | 試験 | | |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 【分野】 | 専門基礎分野　人体の構造と機能 | | | | |
| 【科目】 | 人体機能Ⅱ | | | | |
| 【基本情報】 | | | | | |
| 配当年次 | 2 | 学年 | 担当教員 | 渡辺　賢／浜岡 隆文 | |
| 単位数 | 4 | 単位 | | | |
| 開講学期 | 通年 | | 授業形態・回数 | 講義 | 40回 |
| 【授業情報】 | | | | | |
| 授業概要 | 医学、及び柔道整復を修得するための基礎として、人体について構造と機能を理解し、考察できる能力を身につける。 | | | | |
| 授業の一般目標（GIO） | 血液、呼吸器系、循環器系、腎・泌尿器系、消化器系、代謝・体温、内分泌系、生殖器系についての機能、及び高齢者競技者の生理学的特徴・変化について修得する。<br>姿勢の維持・歩行をするための運動器の機能を理解する。 | | | | |
| 【担当教員から】 | | | | | |
| 教科書 | 公益社団法人柔道整復学校協会監修　生理学　南江堂 | | | | |
| 参考書 | 生理学テキスト（著　大地　陸男/文光堂）解剖生理学第10版（著　坂井　建雄、岡田　隆夫/医学書院） | | | | |
| 成績評価基準 | 評価の観点は1）授業の理解と表現　2）知識の浸透度と理解度とし、学期末に行う期末試験で評価する。<br>授業の理解度を評価するために、学期末ごとに課題を提出させ評価する。<br><br>各学期末試験は記述試 | | | | |
| 成績評価方法 | 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案 して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。<br><br>成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。<br>（1）A：100～90点　（2）B：89～70点　（3）C：69～60点　（4）D：60点未満 | | | | |
| 授業時間以外に必要な学修 | 教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと | | | | |
| 履修にあたっての留意点 | 授業前日には教科書の該当ページを予習し、放課後には学習内容の見直しを行うこと。さらに余暇を利用して図書室での参考書、参考文献の確認などを行い、学習内容を深めることを心掛けてください。 | | | | |

【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標(SBOs) | 講義形態 |
|---|---|---|---|---|
| 1期 | 1 | 血液の組成　赤血球　白血球 | 1　血液の役割を理解できる。<br>2　赤血球の働き特にヘモグロビンの機能を理解できる。　3　白血球の種類とそれらの機能が理解できる。 | 講義 |
| | 2 | 血小板　血漿　血液凝固 | 1　血漿成分特に血漿蛋白質の種類と機能を理解できる。　2　血液凝固に関わる主たる因子と凝固の機序が理解できる。 | 講義 |
| | 3 | 血液型　リンパ | 1　各血液型の凝集原と凝集ならびに凝集反応の機序について理解できる。 | 講義 |
| | 4 | 呼吸運動・換気量 | 1　呼吸器の構造とその機能について理解する。<br>2　換気の仕組みについて理解する。 | 講義 |
| | 5 | ガス交換とガス運搬 | 1　ガス交換の仕組みをガス分圧との関係から理解する。<br>2　酸素、二酸化炭素の血中運搬の仕組みとそれに影響する因子について学ぶ。 | 講義 |
| | 6 | 呼吸運動の調節・呼吸の異常 | 1　呼吸調節の仕組みを理解する。<br>2　呼吸の異常が起きる原因について学ぶ。 | 講義 |
| | 7 | 循環の一般　心臓の構造・機能・調節 | 1　循環の生理的意義を理解する。<br>2　心臓の機能を理解する。<br>3　心筋の基本的性質と意義を理解する。<br>4　心電図の波形と意味を理解する。<br>5　心臓のポンプ機能の仕組みを理解する。 | 講義 |
| | 8 | 血管系の構造と機能 | 1　各血管の構造と機能を理解する。<br>2　血圧の発生と仕組みと測定法について学ぶ。 | 講義 |
| | 9 | 循環の調節　特殊な局所循環　リンパ循環 | 1　リンパ管系の構成と生理的意義を理解する。<br>2　心血管から成る循環系の機能調節について特に神経性調節の面から学ぶ。<br>3　臓器ごとの特徴ある循環調節についてその意義と調節の仕組みを理解する。 | 講義 |
| | 10 | 試験 | | 試験 |
| 通年 | 11 | 細胞、組織の加齢現象 | 細胞、組織の加齢現象を理解できる。 | 講義 |
| | 12 | 高齢者の生理的特徴 | 加齢による臓器機能変化について理解できる | 講義 |
| | 13 | 高齢者の生理的特徴 | 高齢者特有の疾患・障害について理解できる | 講義 |
| | 14 | 運動と加齢 | 加齢に伴う運動機能の変化を理解できる。 | 講義 |
| | 15 | 運動と身体発達 | 身体発育の特徴を理解できる。 | 講義 |
| | 16 | 運動と身体発達 | 骨・筋肉系の発育と運動について理解できる。 | 講義 |
| | 17 | 運動と身体発達 | 呼吸循環系機能と発育について理解できる。 | 講義 |
| | 18 | 運動と身体発達 | 運動不足・過運動の影響について理解できる。 | 講義 |
| | 19 | 競技者の生理的特徴 | 競技者の身体及び生理学的特徴を理解できる | 講義 |
| | 20 | 試験 | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 2期 | 21 | 腎臓の構造と役割 | 1　腎臓の構造と機能を理解できる。 | 講義 |
| | 22 | ろ過・再吸収・分泌 | 1　糸球体のろ過の仕組みを理解できる。<br>2　尿細管における再吸収の仕組みと各部位の特徴を理解できる。<br>3　尿細管における分泌の仕組みを理解できる。 | 講義 |
| | 23 | 尿の組成　排尿 | 1　排尿の仕組みを理解できる。 | 講義 |
| | 24 | 体温　体温の調節・発熱 | 1　体温発生の仕組みを理解できる。<br>2　体温発生の仕組みを理解できる。<br>3　体温の生理的な変動が理解できる。<br>4　体内の熱産生と放散の仕組みを理解できる。<br>5　体温調節の仕組みを理解できる。<br>6　発熱の仕組みを理解できる。 | 講義 |
| | 25 | 消化器系の構造と機能　口腔内の消化 | 1　消化器系の構造と機能を理解できる。<br>2　口腔内における消化の仕組みを理解できる。 | 講義 |
| | 26 | 胃内の消化 | 1　胃内における消化の仕組みを理解できる。 | 講義 |
| | 27 | 小腸内の消化 | 1　小腸内における消化の仕組みを理解できる。 | 講義 |
| | 28 | 大腸内の消化、排便 | 1　大腸内における消化の仕組みを理解できる。 | 講義 |
| | 29 | 腸管吸収の機序　各種栄養素の吸収 | 1　栄養素の消化と吸収の仕組みについて理解できる。 | 講義 |
| | 30 | 2期期末試験 | | 講義 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 3期 | 31 | 消化管ホルモン・肝臓の機能 | 1　消化管ホルモンの特徴と機能について理解できる。<br>2　肝臓の機能について理解できる。 | 講義 |
| | 32 | 中間代謝　エネルギー代謝 | 1　代謝の生理的意味と中間代謝およびエネルギー代謝について理解できる。 | 講義 |
| | 33 | 内分泌腺　ホルモンの一般性質 | 1　内分泌およびホルモンの定義を理解できる。<br>2　ホルモンの特性を理解できる。<br>3　ホルモンの化学組成と作用機序が理解できる。<br>4　内分泌調節の仕組みを理解できる。 | 講義 |
| | 34 | 視床下部のホルモン　下垂体のホルモン | 1　視床下部ホルモンの特徴と作用を理解できる。<br>2　下垂体前葉ホルモンと後葉ホルモンの特徴と分泌調節ならびに作用を理解できる。 | 講義 |
| | 35 | 甲状腺のホルモン | 1　甲状腺ホルモンの特徴と分泌調節ならびに作用を理解できる。 | 講義 |
| | 36 | 副腎皮質・髄質のホルモン　膵臓のホルモン | 1　副腎皮質ホルモンである糖質コルチコイドと電解質コルチコイドの特徴と分泌調節ならびに作用を理解できる。<br>2　副腎髄質ホルモンの特徴と分泌調節ならびに作用を理解できる。<br>3　膵臓ホルモンの特徴と分泌調節ならびに作用を理解できる。 | 講義 |
| | 37 | カルシウム代謝のホルモン | 1 カルシウム代謝に関わるホルモンの作用を理解できる。 | 講義 |
| | 38 | 精巣のホルモン　卵巣のホルモン | 1　精巣、卵巣ホルモンの特徴と分泌調節ならびに作用を理解できる。 | 講義 |
| | 39 | 性染色体・性分化　性周期・妊娠と分娩 | 1 性染色体と性分化の仕組みを理解できる。<br>2 男性生殖器の構成と精子形成の仕組みを理解できる。<br>3 女性生殖器の構成と卵巣周期および月経周期の成り立ちについて理解できる。<br>4 妊娠と分娩および乳汁分泌の仕組みを理解できる。 | 講義 |
| | 40 | 3期期末試験 | | 講義 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 【分野】 | 専門基礎分野　疾病と傷害 | | | | |
| 【科目】 | 疾病の成り立ち | | | | |
| 【基本情報】 | | | | | |
| 配当年次 | 2 | 学年 | 担当教員 | 渡辺　亜希 | |
| 単位数 | 2 | 単位 | | | |
| 開講学期 | 2学期・3学期 | | 授業形態・回数 | 講義 | 20回 |
| 【授業情報】 | | | | | |
| 授業概要 | 疾病を起こす因子と疾病過程を系統立てて学習します。 | | | | |
| 授業の一般目標（GIO） | 病理学を学ぶ意義を理解する。<br>疾病の一般の病因、退行性病変、循環障害、進行性病変、炎症、免疫異常・アレルギー、腫瘍、先天性異常の因子と過程を系統立てて理解する。 | | | | |
| 【担当教員から】 | | | | | |
| 教科書 | 「病理学概論」（公社)全国柔道整復学校協会監修（株)医歯薬出版 | | | | |
| 参考書 | 病理学　高橋　徹著　金原出版 | | | | |
| 成績評価基準 | 評価の観点は<br>1）授業の理解と表現　2）知識の浸透度と理解度とし、学期末に行う期末試験で評価する。<br>各学期末試験　記述試験(記述式および選択式) | | | | |
| 成績評価方法 | 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案 して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。<br><br>成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。<br>（1）A：100～90点　（2）B：89～70点　（3）C：69～60点　（4）D：60点未満 | | | | |
| 授業時間外に必要な学習 | 各授業後に復習を2時間行うこと。 | | | | |
| 履修にあたっての留意点 | 病理学はヒトの病気の成り立ちを知る学問です。発生機序や分類などを通して、それによってもたらされる病態の概要を学びます。授業では資料を配布しますが、話した内容も積極的にメモをとり、講義終了後にはよく復習するよう心がけて下さい。 | | | | |

【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標(SBOs) | 講義形態 |
|---|---|---|---|---|
| 2期 | 1 | 病理学の意義 | 病理学とはどのような学問か理解できる。 | 講義 |
| | 2 | 疾病の一般 | 疾病や症候の分類が理解でき、経過・予後・転帰の意味合いが説明できる。 | 講義 |
| | 3 | 病因 | 病因(内因・外因)が分類でき、代表例を列挙できる。 | 講義 |
| | 4 | | | 講義 |
| | 5 | 退行性病変 | 退行性病変の定義を理解でき、代表例を列挙できる。 | 講義 |
| | 6 | | | 講義 |
| | 7 | 循環障害 | 循環障害の定義と原因が理解できる。 | 講義 |
| | 8 | | | 講義 |
| | 9 | 進行性病変 | 進行性病変の定義を理解でき、代表例を列挙できる。 | 講義 |
| | 10 | 試験 | | |
| 3期 | 11 | 炎症 | 炎症の原因を分類し、それぞれの形態学的変化や経過過程を理解できる。 | 講義 |
| | 12 | | | 講義 |
| | 13 | 免疫異常・アレルギー | 免疫の機序を知り、その異常により起こる疾患が理解できる。<br>アレルギーを分類でき、その特徴が挙げられる。 | 講義 |
| | 14 | | | 講義 |
| | 15 | 腫瘍 | 腫瘍の定義や特徴が理解できる。 | 講義 |
| | 16 | | | 講義 |
| | 17 | | | 講義 |
| | 18 | 先天性異常 | 遺伝子や染色体について知り、異常を示す疾患が挙げられる。奇形の原因が理解できる。 | 講義 |
| | 19 | | | 講義 |
| | 20 | 試験 | | 試験 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 【分野】 | 専門基礎分野　疾病と傷害 | | | | |
| 【科目】 | 運動器診断治療学 | | | | |
| 【基本情報】 | | | | | |
| 配当年次 | 2 | 学年 | 担当教員 | 西山　誠 | |
| 単位数 | 3 | 単位 | | | |
| 開講学期 | 通年 | | 授業形態・回数 | 講義 | 30回 |
| 【授業情報】 | | | | | |
| 授業概要 | 柔道整復が取り扱う運動器損傷に対し、広く運動器疾患を取り扱う整形外科学の診断、治療を中心とした講義をする。 | | | | |
| 授業の一般目標（GIO） | 外傷と外傷以外の運動器疾患の診断と治療の相違について理解する。 | | | | |
| 【担当教員から】 | | | | | |
| 教科書 | 「整形外科学」 改訂第4版 （社）全国柔道整復学校協会 （株）南江堂 | | | | |
| 参考書 | 標準整形外科学　医学書院・神中整形外科学（天児　民和）・整形外科学・外傷学（森崎　直木）・骨・関節の外傷（ワトソンジョーンズ・柏木　大治訳） | | | | |
| 成績評価基準 | 評価の観点は1）授業の理解と表現　2）知識の浸透度と理解度とし、学期末に行う期末試験で評価する。<br>学期末ごとに授業への参加意欲を評価する。<br><br>各学期末試験は4者拓一式 | | | | |
| 成績評価方法 | 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案 して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。<br><br>成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。<br>（1）A：100～90点 （2）B： 89～70点 （3）C： 69～60点 （4）D： 60点未満 | | | | |
| 授業時間外に必要な学修 | 各授業後に復習を2時間行うこと。 | | | | |
| 履修にあたっての留意点 | 各疾患の病態・症状などを参考資料やインターネットを用いて映像を確認して理解していくこと。<br>徒手検査は自らが骨を触れたり、関節や筋力などの評価を実践すること。 | | | | |

【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標(SBOs) | 講義形態 |
|---|---|---|---|---|
| 1期 | 1 | 整形外科総論 運動器の基礎知識 | 整形外科の意義や各運動器の構造を説明できる。 | 講義 |
| | 2 | 整形外科診察法 | 正常姿勢の特徴を説明できる。<br>四肢計測の意義が説明できる。<br>跛行の種類と疾患の関係が説明できる。<br>関節可動域制限となる原因を理解し、良肢位や関節可動域の測定を説明できる。<br>徒手筋力検査の意義が説明できる。<br>知覚・反射検査の意義を説明できる。 | 講義 |
| | 3 | 整形外科診察法 | | 講義 |
| | 4 | 整形外科診察法 | | 講義 |
| | 5 | 整形外科検査法 | 検査の進め方や関節鏡検査、骨密度測定などの種類と概略を説明できる。<br>超音波やX線などによるの画像検査の目的と概要を説明できる。 | 講義 |
| | 6 | 整形外科検査法 | | 講義 |
| | 7 | 整形外科的治療 | 保存療法と観血療法の区分できる。<br>観血療法の目的と概要を説明できる。<br>開放性骨折の特徴と観血療法の概要を説明できる。 | 講義 |
| | 8 | 整形外科的治療・開放性骨折の危険性 | | 講義 |
| | 9 | 整形外科的治療・開放性骨折の危険性 | | 講義 |
| | 10 | 試験 | | |
| 2期 | 11 | スポーツ整形外科総論 | 主なスポーツ障害・外傷を挙げ、その特徴や原因を説明できる。 | 講義 |
| | 12 | 骨・軟部腫瘍 | 整形外科領域の主な骨・軟部組織腫瘍を挙げ、各疾患の特徴的な症状を説明できる。<br>各疾患の治療法の概略を説明できる。 | 講義 |
| | 13 | 骨・軟部腫瘍 | | 講義 |
| | 14 | 非感染性疾患 | 整形外科領域での主な非感染性疾患・感染性疾患を挙げ、各疾患の特徴的な症状を説明できる。<br>各疾患の治療法の概略を説明できる。 | 講義 |
| | 15 | 非感染性疾患 | | 講義 |
| | 16 | 感染性疾患 | | 講義 |
| | 17 | 感染性疾患 | | 講義 |
| | 18 | 全身性の骨・軟部疾患 | 主な骨系統疾患を挙げ、各疾患の概略を説明できる。<br>主な骨系統疾患の治療法の概略が説明できる。 | 講義 |
| | 19 | 全身性の骨・軟部疾患 | | 講義 |
| | 20 | 試験 | | |
| 3期 | 21 | 骨端症 | 主な骨端症の概略を説明できる。<br>主な骨端症の治療法の概略が説明できる | 講義 |
| | 22 | 骨端症 | | 講義 |
| | 23 | 四肢循環障害 | 主な四肢循環疾患の概略を説明と治療法の概略が説明できる。 | 講義 |
| | 24 | 全身性神経・筋疾患 | 整形外科領域での主な神経・筋系統疾患を挙げ、各疾患の特徴的な症状を説明できる。 | 講義 |
| | 25 | 全身性神経・筋疾患 | | 講義 |
| | 26 | 全身性神経・筋疾患 | | 講義 |
| | 27 | 体幹の疾患・肩甲帯および上肢の疾患 | 整形外科領域での主な体幹や四肢の疾患を挙げ、各疾患の原因と特徴的な症状の説明と治療法の概略を説明できる。<br>類似する外傷との鑑別点を説明できる。 | 講義 |
| | 28 | 肩甲帯および上肢の疾患・骨盤および下肢の疾患 | | 講義 |
| | 29 | 肩甲帯および上肢の疾患・骨盤および下肢の疾患 | | 講義 |
| | 30 | 試験 | | |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 【分野】 | 専門基礎分野　疾病と傷害 | | | | |
| 【科目】 | 内科診断治療学 | | | | |
| 【基本情報】 | | | | | |
| 配当年次 | 2 | 学年 | 担当教員 | 三島　史朗 | |
| 単位数 | 4 | 単位 | | | |
| 開講学期 | 1学期・2学期 | | 授業形態・回数 | 講義 | 40回 |
| 【授業情報】 | | | | | |
| 授業概要 | 日常遭遇しやすい内科的疾患の機序や病態生理、検査所見（画像・病理所見）、治療や予後について学習します。 | | | | |
| 授業の一般目標（GIO） | 総論では、診察（医療面接・視診・触診・打診・聴診・身体計測）の意義や進め方を知る。<br>各論では、代表的な内科的疾患の病態生理や主症状について理解を深める。 | | | | |
| 【担当教員から】 | | | | | |
| 教科書 | 「一般臨床医学」（公社）全国柔道整復学校協会監修　（株）医歯薬出版 | | | | |
| 参考書 | 内科学（朝倉書店）　内科診断学（医学書院） | | | | |
| 成績評価基準 | 評価の観点は<br>1）授業の理解と表現　2）知識の浸透度と理解度とし、学期末に行う期末試験で評価する。<br>各学期末試験　記述式および4者択一式 | | | | |
| 成績評価方法 | 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案 して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。<br><br>成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。<br>（1）A：100～90点　（2）B：89～70点　（3）C：69～60点　（4）D：60点未満 | | | | |
| 授業時間外に必要な学習 | 各授業後に復習を2時間行うこと。 | | | | |
| 履修にあたっての留意点 | はじめて聞く言葉が多くあると思うので、授業前には読めない漢字を調べておくなどの予習をすることが望ましい。また、基礎医学（解剖学・生理学）の知識が必要になるので、予習復習をしておくこと。授業中はノートをとること。黒板に書くものだけでなく、話した内容もメモをとり、よく復習をして下さい。 | | | | |

【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標(SBOs) | 講義形態 |
|---|---|---|---|---|
| 1期 | 1 | 呼吸器疾患 | 呼吸器疾患の概要を知り、各疾患について主要症状を中心に理解できる。 | 講義 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| | 4 | 循環器疾患 | 循環器疾患の概要を知り、各疾患について主要症状を中心に理解できる。 | 講義 |
| | 5 | | | |
| | 6 | | | |
| | 7 | 消化器疾患(肝胆膵疾患を含む) | 消化器疾患の概要を知り、各疾患について主要症状を中心に理解できる。 | 講義 |
| | 8 | | | |
| | 9 | | | |
| | 10 | | | 講義 |
| | 11 | 代謝疾患 | 代謝疾患の概要を知り、各疾患について主要症状を中心に理解できる。 | 講義 |
| | 12 | | | 講義 |
| | 13 | | | 講義 |
| | 14 | 内分泌疾患 | 内分泌疾患の概要を知り、各疾患について主要症状を中心に理解できる。 | 講義 |
| | 15 | | | 講義 |
| | 16 | | | 講義 |
| | 17 | 血液・造血器疾患 | 血液・造血器疾患の概要を知り、各疾患について主要症状を中心に理解できる。 | 講義 |
| | 18 | | | 講義 |
| | 19 | | | 講義 |
| | 20 | 試験 | | 試験 |
| 2期 | 21 | 腎・尿路疾患 | 腎・尿路疾患の概要を知り、各疾患について主要症状を中心に理解できる。 | 講義 |
| | 22 | | | |
| | 23 | | | |
| | 24 | 神経疾患 | 神経疾患の概要を知り、各疾患について主要症状を中心に理解できる。 | 講義 |
| | 25 | | | |
| | 26 | | | |
| | 27 | 感染症 | 感染症の概要を知り、主要症状を中心に理解できる。 | 講義 |
| | 28 | 膠原病、アレルギー疾患 | 膠原病、アレルギー疾患の概要を知り、各疾患について主要症状を中心に理解できる。 | 講義 |
| | 29 | | | |
| | 30 | | | |
| | 31 | 診察の意義、診察の進め方、医療面接の意義と方法 | 診察の意義や進め方を理解する。<br>医療面接の意義と方法を理解する。 | 講義 |
| | 32 | 視診 | 視診の意義を理解し、方法の概略を知る。<br>視診所見と代表的疾患との関係を知る。 | 講義 |
| | 33 | | | |
| | 34 | | | |
| | 35 | 打診、聴診 | 打診、聴診の意義を理解し、方法の概略を知る。<br>打診、聴診所見と代表的疾患との関係を知る。 | 講義 |
| | 36 | 触診、生命徴候 | 触診の意義を理解し、方法の概略を知る。<br>触診所見と代表的疾患との関係を知る。<br>生命徴候の概要を知り、臨床的意義を理解できる。 | 講義 |
| | 37 | 感覚検査、反射検査 | 感覚検査の種類を挙げ、意義を理解できる。<br>反射検査の種類を上げ、意義を理解できる。 | 講義 |
| | 38 | 代表的な臨床症状 | 代表的な臨床症状の病態生理を理解し、主要疾患が挙げられる。 | 講義 |
| | 39 | 検査法 | 代表的な検査法の概略が理解できる。 | 講義 |
| | 40 | 試験 | | 試験 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 【分野】 | 専門基礎分野　疾病と傷害 | | | | |
| 【科目】 | 外科診断治療学 | | | | |
| 【基本情報】 | | | | | |
| 配当年次 | 2 | 学年 | 担当教員 | 池田　克介/中川路　桂 | |
| 単位数 | 3 | 単位 | | | |
| 開講学期 | 通年 | | 授業形態・回数 | 講義 | 30回 |
| 【授業情報】 | | | | | |
| 授業概要 | 損傷、外傷、炎症、腫瘍、ショック、輸血・輸液、滅菌・消毒、手術・麻酔、出血・止血、蘇生法などの外科的な基本事項を学ぶ。 | | | | |
| 授業の一般目標（GIO） | 日常業務において遭遇しやすい外科領域の疾患および柔道整復師には禁忌症となっている創傷などの臨床症状および経過、治療法などを理解する。 | | | | |
| 【担当教員から】 | | | | | |
| 教科書 | 公益社団法人柔道整復学校協会監修　外科学概論　南江堂 | | | | |
| 参考書 | 新病理学総論・各論（南山堂）・戸田新細菌学（南山堂）・エッセンシャル麻酔科学（医歯薬出版）・標準脳神経外科学（医学書院）・標準外科学（医学書院） | | | | |
| 成績評価基準 | 評価の観点は1）授業の理解と表現　2）知識の浸透度と理解度とし、学期末に行う期末試験及び進級試験で評価する。<br>各学期末試験　記述試験(記述式および選択式) | | | | |
| 成績評価方法 | 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案 して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。<br><br>成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。<br>（1）A：100～90点　（2）B：89～70点　（3）C：69～60点　（4）D：60点未満 | | | | |
| 授業時間外に必要な学習 | 各授業後に2時間復習を行うこと。 | | | | |
| 履修にあたっての留意点 | 講義は教科書を中心に進め、国家試験の過去問題を用いて知識の整理を行うが、はじめて聞く言葉が多くあると思うので、授業前には読めない漢字を調べておくなどの予習をすることが望ましい。また、基礎医学（解剖学・生理学）の知識が必要になるので、予習復習をしておくこと。授業中はノートをとること。黒板に書くものだけでなく、話した内容もメモをとり、よく復習をして下さい。 | | | | |

【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標(SBOs) | 講義形態 |
|---|---|---|---|---|
| 1期 | 1 | 損傷の分類　機械的損傷 | 損傷を分類する意義を理解する。<br>機械的損傷の分類と意義を理解する。<br>バイタルサインの判定基準を理解する。<br>外傷の重症度の判定基準を理解する。<br>熱傷の分類・重傷度・処置法を理解する。<br>熱傷の合併症を知り概略を理解する。 | 講義 |
| | 2 | 機械的損傷 | | 講義 |
| | 3 | 非機械的損傷 | | 講義 |
| | 4 | 炎症の定義　分類 | 炎症の定義･分類及びその意義を理解する。<br>感染症のメカニズム外科的感染症の概略を理解する。 | 講義 |
| | 5 | 感染発症のメカニズム | | 講義 |
| | 6 | 腫瘍の定義　分類 | 腫瘍の概念を理解する。<br>腫瘍の主な分類を知る。<br>主な良性腫瘍の種類と概略を理解する。<br>悪性腫瘍を分類し病態について知る。<br>悪性腫瘍の診断の概略を知る。<br>悪性腫瘍の治療の概略を知る。<br>腫瘍の治療成績についての概略を知る。 | 講義 |
| | 7 | 良性腫瘍　悪性腫瘍 | | 講義 |
| | 8 | ショック | ショックの定義・分類を知る。<br>ショックの症状と診断の概要を理解する。<br>ショックの初期処置・治療を理解する。 | 講義 |
| | 9 | 輸血輸液の意義　輸血・輸液の種類 | 血液学基礎知識及びABO式血液型交差適合試験の意義について理解する。<br>輸血の意義・適応・副作用を理解する。<br>輸液の意義・種類・適応について理解する。<br>輸液の合併症について理解する。 | 講義 |
| | 10 | 試験 | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 2期 | 11 | 滅菌と消毒の必要性　種類 | 消毒の重要性、主な消毒法を挙げ概要が説明できる。<br>手指の消毒法を挙げられる。<br>手術時の皮膚消毒の概要が説明できる。 | 講義 |
| | 12 | 全身麻酔　局所麻酔 | 各種麻酔法を知り意義が理解できる。<br>全身・局所麻酔の違いと用途が理解できる。 | 講義 |
| | 13 | 移植の障害因子　代表的な臓器移植 | 移植の種類･移植に伴う事項を理解する。<br>代表的臓器移植の現状と適応等の問題点を理解する。 | 講義 |
| | 14 | 出血の種類　止血 | 出血の種類及び概要を理解する。 | 講義 |
| | 15 | 外出血・内出血の概要と止血法 | 外出血・内出血の概要を知り合わせて止血法を理解する。 | 講義 |
| | 16 | 蘇生術の意義　治療　蘇生後の処置 | 蘇生法の概略を理解する。 | 講義 |
| | 17 | 構造　頭蓋内の主要病態 | 頭蓋内の主要な病態の概略を知る。<br>脳腫瘍の概略を知る。<br>脳血管障害の概略と主な病態を知る。 | 講義 |
| | 18 | 脳腫瘍･脳血管障害･頭部外傷 | | 講義 |
| | 19 | 胸壁・肺・縦隔疾患・胸部損傷<br>構造　問診と身体所見　症状 | 胸部疾患の主要な症候を知り主要な疾患との関連を理解する。<br>胸部疾患の主要な検査の概略を知る。<br>胸部疾患の主な手術法の概略を知る。<br>胸部疾患・胸部外傷の概略を知る。 | 講義 |
| | 20 | 試験 | | |
| 3期 | 21 | 乳腺疾患各論 | 乳腺疾患の概略を理解する。 | 講義 |
| | 22 | 心臓疾患 | 心・血管系疾患の検査法を知る。<br>心臓疾患での主な手術法の概略を知る。<br>主な心臓疾患の概要を知る。 | 講義 |
| | 23 | | | 講義 |
| | 24 | | | 講義 |
| | 25 | 脈管疾患 | 動脈疾患の概要を知る。<br>静脈疾患の概要を知る。 | 講義 |
| | 26 | | | 講義 |
| | 27 | 腹部疾患各論 | 腹部疾患の検査法等の概要を知る。<br>主要な腹部疾患の概要を知る。 | 講義 |
| | 28 | | | 講義 |
| | 29 | 試験 | | |
| | 30 | 疾患各論の振り返り | 各部の代表的な疾患概要が説明できる。 | 講義 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 【分野】 | 専門基礎分野　疾病と傷害 | | | | |
| 【科目】 | 人体機能回復論 | | | | |
| 【基本情報】 | | | | | |
| 配当年次 | 2 | 学年 | 担当教員 | 西山　誠/池田　克介/中川路　桂 | |
| 単位数 | 3 | 単位 | | | |
| 開講学期 | 通年 | | 授業形態・回数 | 講義 | 30回 |
| 【授業情報】 | | | | | |
| 授業概要 | リハビリテーションの理念と原則を踏まえて、医学および社会における包括的なリハビリテーション、ならびに障害学の基本概念を習得することを目標とする。障害の内容と評価・治療方法の要点、リハビリテーションのプロセス、各専門職とリハビリテーションチーム医療のあり方、さらには保健・福祉行政における社会的資源とリハビリテーションの関わり等についての基礎知識を理解する。また、高齢者に関わるリハビリテーション医学について理解し高齢者の機能訓練における基本的な知識・技術について学習する。 | | | | |
| 授業の一般目標（GIO） | リハビリテーションの概念、障害の成因、評価法、運動器のリハビリテーションを中心としての障害からの回復過程と治療用機器及び使用法、それらを使った治療法を理解する。高齢者について理解し高齢者の機能訓練における基本的な知識・技術について学ぶ。また基礎医学として、姿勢保持、歩行に関与する筋等の組織の働き、異常姿勢・異常歩行が生じる組織異常との関連を理解する。 | | | | |
| 【担当教員から】 | | | | | |
| 教科書 | リハビリテーション医学<br>柔道整復師と機能訓練指導 | | | | |
| 参考書 | メディカルスタッフ専門基礎科目シリーズ リハビリテーション概論（真柄 彰/鴨下 博）<br>メディカルスタッフ専門基礎科目シリーズ リハビリテーション医学（真柄 彰/鴨下 博） | | | | |
| 成績評価基準 | 評価の観点は1）授業の理解と表現　2）知識の浸透度と理解度とし、学期末に行う期末試験で評価する。<br>学期末ごとに授業参加意欲を評価する。<br>各学期末試験は4者拓一式 | | | | |
| 成績評価方法 | 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案 して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。<br>成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。<br>（1）A：100～90点　（2）B：89～70点　（3）C：69～60点　（4）D：60点未満 | | | | |
| 授業時間外に必要な学修 | 各授業後に復習を2時間行うこと。 | | | | |
| 履修にあたっての留意点 | 各疾患の病態・症状などを参考資料や教科書を用いて熟読すること。<br>インターネットを用いて各疾患の病態やリハビリの仕方を映像で確認すること。 | | | | |

【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標(SBOs) | 講義形態 |
|---|---|---|---|---|
| 1期 | 1 | リハビリテーションの歴史<br>定義と概念目的 | ・ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝの概念、理念について説明できる。<br>・障害の分類と対応の概略を説明できる。 | 講義 |
| | 2 | 障害の分類と対応 | | 講義 |
| | 3 | 関節拘縮・変形　筋萎縮　神経麻痺 | ・理学療法の概略や筋力増強訓練の目的、身体計測の評価法を説明できる。<br>・障害の成因、評価法を身につける。<br>・姿勢保持、歩行に関与する筋等の組織の働きが説明できる。 | 講義 |
| | 4 | 治療の原則 拘縮治療 筋力増強訓練 | | 講義 |
| | 5 | 身体計測　関節可動域　徒手筋力テスト | | 講義 |
| | 6 | 身体計測　関節可動域<br>徒手筋力テスト | | 講義 |
| | 7 | 中枢性運動障害・小児運動発達の評価 | ・異常姿勢・異常歩行が生じる組織異常との関連が説明できる<br>・障害の成因、評価法を身につける | 講義 |
| | 8 | 協調性テスト/失認と失行の評価/日常生活評価 | | 講義 |
| | 9 | 協調性テスト/失認と失行の評価/日常生活評価 | | 講義 |
| | 10 | 試験 | | 試験 |
| 2期 | 11 | 電気生理学的診断法画像診断 | ・画像診断による目的と概略を説明できる。 | 講義 |
| | 12 | 運動療法 作業療法　物理療法(牽引療法含) | ・運動器の治療用機器及び使用法、運動療法を中心とした理学療法や作業療法の内容を説明できる。 | 講義 |
| | 13 | 運動療法 作業療法　物理療法(牽引療法含) | | 講義 |
| | 14 | 上肢・下肢・体幹の装具 | | 講義 |
| | 15 | 上肢・下肢・体幹の装具 | | 講義 |
| | 16 | 義肢　歩行補装具 | | 講義 |
| | 17 | 義肢　歩行補装具 | | 講義 |
| | 18 | 車椅子　自助具　介助機器 | | 講義 |
| | 19 | 車椅子　自助具　介助機器 | | 講義 |
| | 20 | 試験 | | 試験 |
| 3期 | 21 | 脳卒中・言語療法 | ・中枢神経系のﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝを中心とした障害からの回復過程を説明できる。 | 講義 |
| | 22 | 脳卒中・言語療法 | | 講義 |
| | 23 | 脊髄損傷 | ・精髄損傷のﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝを中心とした障害からの回復過程を説明できる。 | 講義 |
| | 24 | 脊髄損傷 | | 講義 |
| | 25 | 脊髄損傷 | | 講義 |
| | 26 | 小児疾患(脳性麻痺) | ・脳性麻痺の定義と過程を説明できる。 | 講義 |
| | 27 | 老人のリハビリテーション | ・高齢者とﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医学との関連について説明できる。<br>・高齢者の機能訓練の目的及び対象について説明できる。<br>・高齢者の機能訓練における機能訓練指導員の役割を理解し説明できる。 | 講義 |
| | 28 | 老人のリハビリテーション | | 講義 |
| | 29 | 老人のリハビリテーション | | 講義 |
| | 30 | 試験 | | 試験 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 【分野】 | 専門基礎分野　柔道整復の適応 | | | | |
| 【科目】 | 柔道整復の適応判断 | | | | |
| 【基本情報】 | | | | | |
| 配当年次 | 2 | 学年 | 担当教員 | 三島　史朗 | |
| 単位数 | 2 | 単位 | | | |
| 開講学期 | 3学期 | | 授業形態・回数 | 講義 | 20回 |
| 【授業情報】 | | | | | |
| 授業概要 | 内科的疾患の主要徴候を中心に学びます。 | | | | |
| 授業の一般目標（GIO） | 代表的な内科的疾患の主要徴候を中心に理解を深め、柔道整復師としての禁忌と適応が的確に判断できる。 | | | | |
| 【担当教員から】 | | | | | |
| 教科書 | 「一般臨床医学」（公社）全国柔道整復学校協会監修　（株）医歯薬出版 | | | | |
| 参考書 | 内科学（朝倉書店）　内科診断学（医学書院）（公社）全国柔道整復学校協会監修　医療の中の柔道整復 | | | | |
| 成績評価基準 | 評価の観点は1）授業の理解と表現　2）知識の浸透度と理解度とし、学期末に行う期末試験で評価する。<br>学期末ごとに授業参加意欲を評価する。<br>各学期末試験は記述式および4者択一式 | | | | |
| 成績評価方法 | 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案 して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。<br><br>成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。<br>（1）A：100～90点　（2）B：89～70点　（3）C：69～60点　（4）D：60点未満 | | | | |
| 授業時間外に必要な学習 | 各授業後に2時間復習すること | | | | |
| 履修にあたっての留意点 | 講義は教科書を中心に進め、国家試験の過去問題を用いて知識の整理を行うが、はじめて聞く言葉が多くあると思うので、授業前には読めない漢字を調べておくなどの予習をすることが望ましい。また、基礎医学（解剖学・生理学）の知識が必要になるので、予習復習をしておくこと。授業中はノートをとること。黒板に書くものだけでなく、話した内容もメモをとり、よく復習をして下さい。 | | | | |

【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標(SBOs) | 講義形態 |
|---|---|---|---|---|
| 3期 | 1 | 呼吸器疾患の主要徴候；<br>咳嗽、喀痰、呼吸困難、ばち指、胸水など | 主要徴候の病態生理を述べることができる。<br>主要徴候が起こる疾患名を挙げることができる。<br>徴候の度合いと対応法を述べることができる。 | 講義 |
| | 2 | | | 講義 |
| | 3 | 循環器疾患の主要徴候；<br>胸部不快感・胸痛、動悸、呼吸困難、失神発作、浮腫、心肥大など | | 講義 |
| | 4 | | | 講義 |
| | 5 | | | 講義 |
| | 6 | 消化器疾患（肝胆膵疾患を含む）の主要徴候；<br>悪心・嘔吐、腹痛、吐血・下血、下痢・便秘、<br>黄疸など | | 講義 |
| | 7 | | | 講義 |
| | 8 | | | 講義 |
| | 9 | 代謝・内分泌疾患の主要徴候；<br>肥満・やせ、高血糖・低血糖 | | 講義 |
| | 10 | | | 講義 |
| 3期 | 11 | 代謝・内分泌疾患の主要徴候；<br>アシドーシス・アルカローシスなど | 主要徴候の病態生理を述べることができる。<br>主要徴候が起こる疾患名を挙げることができる。<br>徴候の度合いと対応法を述べることができる。 | 講義 |
| | 12 | 血液・造血器疾患の主要徴候；<br>貧血、感染徴候、出血傾向、リンパ節腫脹・肝脾腫など | | 講義 |
| | 13 | | | 講義 |
| | 14 | | | 講義 |
| | 15 | 腎・尿路疾患；<br>尿量や排尿の異常、浮腫、貧血、疼痛など | | 講義 |
| | 16 | | | 講義 |
| | 17 | 神経疾患の主要徴候；<br>意識障害、認知症、筋力低下・麻痺、歩行障害、運動失調、不随意運動、嚥下障害、めまい、頭痛、感覚障害（しびれ）など | | 講義 |
| | 18 | | | 講義 |
| | 19 | | | 講義 |
| | 20 | 試験 | | 試験 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 【分野】 | 専門基礎分野　保健医療福祉と柔道整復の理念 | | | | |
| 【科目】 | 健康の意義 | | | | |
| 【基本情報】 | | | | | |
| 配当年次 | 2 | 学年 | 担当教員 | 渡辺　亜希 | |
| 単位数 | 2 | 単位 | | | |
| 開講学期 | 2学期・3学期 | | 授業形態・回数 | 講義 | 20回 |
| 【授業情報】 | | | | | |
| 授業概要 | 柔道整復師として、日常義務を安全かつ衛生的に遂行する上での規準・規定を身につける。日常生活で健康を維持、増進するために意義のある事項を身につける。 | | | | |
| 授業の一般目標（GIO） | 健全な日常生活を送るための知識、社会人として身につけるべき健康維持管理能力、さらに人生を豊かにするための意義などについて理解する。 | | | | |
| 【担当教員から】 | | | | | |
| 教科書 | 公益社団法人柔道整復学校協会監修　衛生学・公衆衛生学　南江堂 | | | | |
| 参考書 | 国民衛生の動向（厚生労働統計協会）総合　衛生公衆衛生学（南江堂） | | | | |
| 成績評価基準 | 評価の観点は1）授業の理解と表現　2）知識の浸透度と理解度とし、学期末に行う期末試験で評価する。 | | | | |
| 成績評価方法 | 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案 して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。<br><br>成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。<br>（1）A：100～90点　（2）B：89～70点　（3）C：69～60点　（4）D：60点未満 | | | | |
| 授業時間以外に必要な学修 | 各授業後2時間復習を行うこと。 | | | | |
| 履修にあたっての留意点 | 柔道整復業務の直接のスキルや知識に関係が少ないですが国民の健康に寄与する柔道整復師として必要不可欠な分野であり、その意義を捉えて学習をして下さい。 | | | | |

【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標(SBOs) | 講義形態 |
|---|---|---|---|---|
| 2期 | 1 | 健康の概念　健康指標 | WHOの健康の定義を理解する。<br>WHOの国際障害分類を理解する。<br>に関わる要因を包括的に理解する。<br>衛生統計を行う意味を理解する。<br>主要な衛生統計の種類とその意味合いを理解する。(静態・動態統計を含む)<br>衛生統計による現在の傾向が理解出来る。 | 講義 |
| | 2 | 衛生統計の意義　静態統計　動態統計 | | 講義 |
| | 3 | 疫学の意義　疫学調査　疫学統計手法 | 疫学の意義を理解する。<br>疫学調査の必要性を理解できる。<br>疫学調査方法の意味を理解する。<br>調査の結果、及び評価が理解できる。 | 講義 |
| | 4 | 疾病の自然史と予防段階 | 疾病の自然史が理解できる。<br>疾病自然史に対応する予防が理解できる。<br>生活習慣病を理解し、要因を挙げられる。<br>健康管理の意味合いが理解できる。<br>集団検診の概要が理解できる。 | 講義 |
| | 5 | 健康維持上の生活習慣　健康管理の活動と構成 | | 講義 |
| | 6 | 水　衣服・住居 | 人体に影響する環境の因子を理解する。<br>上水道・下水道など生活圏での水の衛生要素を理解できる。<br>衣服や住居の適環境に関与する事象を理解する。 | 講義 |
| | 7 | 食品・栄養 | 食品が疾病をもたらす要素、また健康増進をもたらす要素を理解する。 | 講義 |
| | 8 | 環境とは　環境問題　物理的・化学的環境要因 | 環境問題とその内容が理解できる。<br>環境因子(人工的)で人体に影響を及ぼす因子を理解できる。 | 講義 |
| | 9 | 空気・水・土壌などの衛生 | | 講義 |
| | 10 | 試験 | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 3期 | 11 | 公害　環境政策 | 公害の定義を挙げ、関係法規、行政対応が理解できる。<br>地球環境維持のための行政の取組が理解できる。 | 講義 |
| | 12 | 衛生行政機構 | 衛生行政の根拠となる憲法を理解する。<br>我が国衛生行政組織の概略が理解できる。<br>医療保険制度のシステムが理解できる。<br>保険者の区分と特徴が理解できる<br>介護保健制度を理解できる。<br>国民医療費の内訳と、問題点が理解できる。<br>健康づくり政策の意味を理解する。<br>健康づくり政策の概要が理解できる。 | 講義 |
| | 13 | 衛生行政の現状 | | 講義 |
| | 14 | 医療保険制度　国民医療費 | | 講義 |
| | 15 | 健康づくり対策 | | 講義 |
| | 16 | 母子保健の現状・母子保健対策 | 母子保健の意味合いを説明できる。<br>母子保健の主要統計の意味と傾向が説明できる。<br>母子保健の行政システムとその対応が説明できる | 講義 |
| | 17 | 学校保健・産業保険の現状と対策 | 学校保健・産業保健を理解できる。<br>学校保健・産業保健の組織、運営の形が理解できる。<br>学校保健・産業保健はどのような取組をしているか理解できる。<br>学校保健・産業保健の主要統計の意味と傾向が理解できる。 | 講義 |
| | 18 | 成人・老人保健の現状と対策 | 成人・老人保健の意味合いを理解できる。<br>成人・老人保健の主要統計（生活習慣病等）の意味と傾向が理解できる。<br>成人・老人保健の行政の取組が理解できる。 | 講義 |
| | 19 | 精神保健の現状と対策 | 精神保健の定義と経緯が理解できる。<br>精神の病気の分類をし、それぞれの特徴が理解できる。<br>精神障害者の入院形態を分類し違いを理解できる。<br>精神保健の主要統計の意味と傾向が理解できる | 講義 |
| | 20 | 試験 | | |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 【分野】 | 専門分野　基礎柔道整復学 | | | | |
| 【科目】 | 柔道整復研究 | | | | |
| 【基本情報】 | | | | | |
| 配当年次 | 2 | 学年 | 担当教員 | 早川　幸秀/丸山　純子/加藤　栄二/池亀　耕太/高橋　光生 | |
| 単位数 | 2 | 単位 | | | |
| 開講学期 | 1学期2学期 | | 授業形態・回数 | 演習 | 20回 |
| 【授業情報】 | | | | | |
| 授業概要 | レポート作成は、見聞きしたこと、頭で考えたこと、調べたこと、体験したことから「問題を整理し、考えを深めること」が1番の目的です。そして、どの程度、問題を整理でき、深化させることができたかを「伝えること、表現すること」が2番目の目的です。また、レポートを作成するには一定のルールがあってそれに従って作成する必要があります。このルールを知って適切なレポート書く訓練をしていきます。 | | | | |
| 授業の一般目標（GIO） | （1）レポート（論文）（以下レポートとする）は、見聞きしたこと、頭で考えたこと、調べたこと、体験したことから問題を整理し、考えを深める技能、問題を整理でき、深化させることができたかを伝える、表現する技能を修得する。<br>（2）レポート作成の成り立ちを理解することで今後医学的、治療技術等の情報を得るときに、客観的にその情報分析し、取捨選択し患者貢献に応用する技能を修得する。 | | | | |
| 【担当教員から】 | | | | | |
| 教科書 | | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 成績評価基準 | 各自1題レポート提出及びレポート内容の発表及び適切なルールに従ってレポートが作成されていることを総合的に判断する。 | | | | |
| 成績評価方法 | 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案 して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。<br><br>成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。<br>（1）A：100～90点　（2）B：89～70点　（3）C：69～60点　（4）D：60点未満 | | | | |
| 授業時間外に必要な学習 | 提出課題に対して論文検索等行うこと。 | | | | |
| 履修にあたっての留意点 | 研究の基礎を学ぶ科目です。将来，基礎研究，臨床研究を自ら計画・実施するために役立てて下さい。 | | | | |

【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標(SBOs) | 講義形態 |
|---|---|---|---|---|
| 1学期2学期 | 1 | レポート(論文)をなぜ書く(読む)必要があるのか<br>レポートの書き方レポートと感想文の違い | レポートを書く(読む)必要性を説明できる。<br>レポートの成り立ちを理解しレポートと感想文の違いを説明できる。(感想文とレポートの提示) | 演習 |
| | 2 | レポートの形式・書式 | レポート作成に必要な作業、修得すべき能力を把握し学術的な文章の要件を説明できる<br>レポートの種類と書式を理解し説明できる(前回の授業で使用したレポートを提示し構成の解説) | 演習 |
| | 3<br>4<br>5<br>6 | 実際のレポートに触れて情報を得る。<br>レポートから要旨を作成する | レポートを読みその内容を解りやすいように発表できる。 | 演習 |
| | 7 | レポート完成までの計画を立てる | 計画的に作業できる。 | 演習 |
| | 8<br>9<br>10 | レポート作成<br>(レポートテーマ決定・内容の明確化) | レポートテーマを決めるにあたりその経緯を深化させることで、そのテーマにおけるレポート作成の意義を認識できる。 | 演習 |
| | 11<br>12 | レポート作成　背景(はじめに)の発表 | レポート内容決定に至る経緯・背景・目的を発表できる。質疑に対応できる。 | 演習 |
| | 13<br>14<br>15<br>16<br>17<br>18 | レポート作成 | 適切な書式に従ってレポートを作成できる。レポート作成進捗状況を発表し質疑に対応できる。適切な書式に従ってレポートを作成できる。 | 演習 |
| | 19 | 完成発表 | レポート発表し質疑に対応できる。 | 演習 |
| | 20 | 計画表の振り返りと問題点の抽出とその対策 | レポート作成過程を振り返りどのような能力が身につき今後どのように活かしていくかを考察できる。 | 演習 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 【分野】 | 専門分野　臨床柔道整復学 | | | | |
| 【科目】 | 柔道整復論臨床Ⅱ | | | | |
| 【基本情報】 | | | | | |
| 配当年次 | 2 | 学年 | 担当教員 | 池亀　耕太／立木　北斗／紀平　晃功 | |
| 単位数 | 6 | 単位 | | 実務経験 | 治療院勤務5年 |
| 開講学期 | 通年 | | 授業形態・回数 | 講義 | 60回 |
| 【授業情報】 | | | | | |
| 授業概要 | 実務経験を活かし実践的な内容を含め授業を展開する。<br>柔道整復術に必要な知識と技能を修得し、問題解決能力を養う。柔道整復に関しての社会的要請の多様化に対応できる能力を養う。 | | | | |
| 授業の一般目標（GIO） | 四肢及び体幹部の具体的な損傷過程や損傷形態、治療法について理解する。<br>四肢及び体幹部の外傷に対して柔道整復術適応の臨床判定（医用画像の理解を含む）を学習する。<br>各種物理療法機器の概要、適応と禁忌、取り扱い上の注意点を知る。 | | | | |
| 【担当教員から】 | | | | | |
| 教科書 | 公益社団法人柔道整復学校協会監修　柔道整復学（理論編） | | | | |
| 参考書 | 神中整形外科学（天児 民和） 新版整形外科学・外傷学（東 博彦他）<br>一人で学べる柔整理論（呉竹学園） | | | | |
| 成績評価基準 | 評価の観点は1）授業の理解と表現　2）知識の浸透度と理解度とし、学期末に行う期末試験で評価する。<br>各学期末試験　記述試験(記述式および選択式) | | | | |
| 成績評価方法 | 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案 して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。<br>成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。<br>（1）A：100～90点　（2）B：89～70点　（3）C：69～60点　（4）D：60点未満 | | | | |
| 授業時間以外に必要な学修 | 教科書、授業で配付された資料を用いて授業内容の復習を行うこと | | | | |
| 履修にあたっての留意点 | 柔道整復理論の理解には運動器の構造機能の理解が必須である。常に学校法人呉竹学園 「柔道整復学を学ぶための運動基礎知識」で運動器の構造機能を確認すること。 | | | | |

【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標(SBOs) | 講義形態 |
|---|---|---|---|---|
| 1期 | 1 | 鎖骨骨折 | 鎖骨骨折の発生機序の特徴を知る。<br>定型的及びその他の鎖骨骨折の症状を知る。<br>整復法・固定法の詳細を理解する。<br>重要な合併症。後遺症について知る。<br>予後に関する事項を知る。 | 講義 |
| | 2 | 鎖骨脱臼 | 胸鎖関節脱臼の分類、発生機序を知る。<br>分類別の症状及び特徴を知る。<br>整復法・固定法の概要を知る。<br>重要な合併症・後遺症について知る。 | 講義 |
| | 3 | 鎖骨脱臼 | 肩鎖関節脱臼の分類、発生機序を知る。<br>分類別の症状及び特徴を知る。<br>整復法・固定法の詳細を理解する。<br>重要な合併症・後遺症について知る。<br>予後に関する事項を知る。 | 講義 |
| | 4 | 上腕骨外科頚骨折 | 外科頚骨折の骨折型及び発生機序を知る。<br>骨折型分類別の症状の特徴を知る。<br>類症と鑑別点を理解する。<br>整復法・固定法・施術上の注意事項を知る。<br>重要な合併症・後遺症について知る。<br>予後に関する事項を知る。 | 講義 |
| | 5 | 上腕骨近位端部骨折 | 上腕近位部骨折の分類と概念を知る。<br>上腕近位部骨折の発生機序を知る。<br>骨折型分類別の症状の特徴を知る。<br>整復法、固定法、施術状について知る。<br>重要な合併症・後遺症について知る。<br>予後に関する事項を知る。 | 講義 |
| | 6 | 肩関節脱臼 | 肩関節脱臼の分類、発生機序を知る。<br>分類別の症状及び特徴を熟知する。<br>前方脱臼の整復・固定法の詳細を熟知する。<br>重要な合併症・後遺症について知る。<br>予後に関する事項を知る。 | 講義 |
| | 7 | | | |
| | 8 | 肩腱板損傷 | 肩関節軟部損傷の分類、発生機序を知る。<br>分類別の症状及び特徴を知る。<br>施術法の概略を知る。 | 講義 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 9 | 上腕二頭筋長頭腱損傷<br>その他の肩軟部組織損傷 | 上腕二頭筋長頭腱損傷、その他の肩関節の軟部損傷の分類、発生機序を知る。<br>分類別の症状及び特徴を知る。<br>予後に関する事項を知る。 | 講義 |
| | 10 | | | |
| | 11 | 下肢帯の損傷 | 下肢帯骨折の種類と概念を理解し説明できる。 | 講義 |
| | 12 | 下肢帯の損傷 | 骨盤骨折の概要を理解し説明できる。<br>治療法の概略を理解し説明できる。<br>重要な合併症・後遺症についてを理解し説明できる。<br>予後に関する事項を理解し説明できる。 | 講義 |
| | 13 | 股関節の損傷　大腿骨近位端部骨折 | 大腿骨近位部骨折の分類を理解し概要を説明できる。<br>大腿骨頸部骨折の分類と発生機序を理解し説明できる。<br>症状及び代表的な整復法を理解し説明できる。<br>重要な合併症・後遺症についてを理解し説明できる。 | 講義 |
| | 14 | | | 講義 |
| | 15 | | | 講義 |
| | 16 | 股関節の損傷　脱臼 | 股関節脱臼の概要を理解し説明できる。<br>後方脱臼の整復・固定法の詳細を理解し説明できる。<br>脱臼に伴う骨折の整復への影響を理解し説明できる。<br>その他の合併症・後遺症を理解し説明できる。 | 講義 |
| | 17 | | | 講義 |
| | 18 | 股関節の損傷　軟部組織損傷 | 鼠径部痛症候群・股関節唇損傷・弾発股・梨状筋症候群・その他(注意すべき疾患)<br>主症状とする疾患の概要を理解し説明できる。<br>概要を理解し説明できる。<br>原因と症状を理解し説明できる。<br>治療法の概略を理解し説明できる。<br>他疾患(外傷)の鑑別に資する所見を　理解し説明できる。 | 講義 |
| | 19 | | | 講義 |
| | 20 | 試験 | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 21<br>22 | 上腕骨骨幹部骨折 | 骨幹部骨折の骨折型及び発生機序を知る。<br>合併する神経損傷の詳細を理解する。整復法・固定法について詳細を理解する。<br>後遺症を考えた施術上の注意事項を知る。<br>偽関節発生のメカニズムを理解する。<br>予後に関する事項を知る。 | 講義 |
| | 23<br>24 | 上腕骨顆上骨折 | 上腕骨顆上骨折の骨折型及び発生機序を知る。<br>骨折型分類別の症状の特徴を理解する。<br>類症と鑑別点を理解する。<br>整復法・固定法・施術上の注意事項を知る。<br>重要な合併症・後遺症について知る。<br>予後に関する事項を知る。 | 講義 |
| | 25 | 上腕骨外顆骨折<br>上腕骨内側上顆骨折 | 1　外顆骨折、内側上顆骨折の発生機序別の骨折型を知る。<br>2　骨折型及び症状の特徴を理解する。<br>3　整復法・固定法・施術上の注意事項を知る。<br>4　重要な合併症・後遺症について知る。<br>5　予後に関する事項を知る。<br>6　関連する損傷を知り、関係を理解する。 | 講義 |
| | 26 | 肘関節後方脱臼 | 1　肘関節損傷の種類と概念を知る。<br>2　肘関節脱臼の分類、発生機序を知る。<br>3　分類別の症状及び特徴を熟知する。 | 講義 |
| | 27 | 肘関節後方脱臼 | 1　後方脱臼の整復・固定法の詳細を熟知する。<br>2　予後に関する事項を知る。<br>3　その他の脱臼の整復・固定法を知る。<br>4　重要な合併症・後遺症について知る。 | 講義 |
| | 28 | 小児肘内障 | 1　小児肘内障の発生機序及び病態を知る。<br>2　小児肘内障の整復法の詳細を熟知する。 | 講義 |
| | 29 | 前腕近位端部骨折 | 1　前腕近位端部骨折の分類と概念を知る。<br>2　橈骨近位端骨折の概要を知る。<br>3　肘頭骨折の概要を知る。 | 講義 |
| | 30 | | | 講義 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 2期 | 31 | 大腿骨骨幹部骨折 | 1　骨幹部骨折の分類、発生機序復習<br>2　骨折型別の症状を理解し説明できる。<br>3　成人・小児に分け治療法の概略を理解し説明できる。<br>4　重要な合併症・後遺症について理解し説明できる。<br>5　予後に関する事項を知る。 | 講義 |
| | 32 | 大腿骨骨幹部骨折 | | |
| | 33 | 大腿の軟部組織損傷 | 1　大腿部打撲・肉離れの分類を理解し説明できる。<br>2　大腿部打撲・肉離れの分類と発生機序を理解し説明できる。<br>3　特徴的な症状及び治療法の概略を理解し説明できる。<br>4　治療法の概略を理解し説明できる。 | 講義 |
| | 34 | 大腿骨遠位端部骨折 | 1　大腿骨遠位部骨折の概要を理解し説明できる。<br>2　大腿骨遠位骨端線離開発生機序を理解し説明できる。<br>3　症状及び整復法の概要を理解し説明できる。<br>4　重要な合併症・後遺症について理解し説明できる。 | 講義 |
| | 35 | 大腿骨遠位端部骨折 | | |
| | 36 | 下腿骨近位端部骨折 | 1　下腿骨近位部骨折の概要を理解し説明できる。<br>3　重要な合併症・後遺症について理解し説明できる。<br>4　予後に関する事項を理解し説明できる。 | 講義 |
| | 37 | 下腿骨近位端部骨折 | | |
| | 38 | 膝関節の損傷　骨折・脱臼 | 1　膝蓋骨脱臼・骨折の分類と発生機序を知る。<br>2　分類別の症状及びその特徴を理解し説明できる。<br>3　脱臼・骨折の整復・固定法の概要を理解し説明できる。<br>4　整復・固定法の詳細を理解し説明できる。<br>6　膝蓋骨脱臼・骨折の合併症・後遺症を知る。 | 講義 |
| | 39 | 膝関節の脱臼 | 1　膝関節脱臼の概要を理解し説明できる。 | 講義 |
| | 40 | 試験 | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 41 | 頭蓋骨骨折・顔面の骨折 | 頭蓋骨骨折・顔面の骨折の概要が説明できる | 講義 |
| | 42 | 顎関節脱臼 | 1　顎関節の構造と機能の概要を知る。<br>2　顎関節脱臼の分類と発生機序を知る。<br>3　前方脱臼の症状を熟知し整復法を知る。<br>4　重要な合併症・後遺症について知る。<br>5　予後に関する事項を知る。 | 講義 |
| | 43 | | | |
| | 44 | 頸部の損傷 | 頸部損傷の概要を説明できる | 講義 |
| | 45 | 胸部の損傷　胸骨・肋骨骨折 | 1　胸骨・肋骨の構造と機能の概要を知る。<br>2　胸骨骨折の分類と発生機序を知る。<br>3　症状と施術法を知る。<br>4　肋骨骨折の症状と発生機序を知る。<br>5　症状と施術の適応、施術法を知る。<br>6　重要な合併症・後遺症について知る。<br>7　予後に関する事項を知る。 | 講義 |
| | 46 | | | 講義 |
| | 47 | 頸部の軟部組織損傷 | 頸部軟部組織損傷の概要を説明できる | 講義 |
| | 48 | 腰部の軟部組織損傷 | 1　腰部捻挫の発生機序を知る。<br>2　症状と施術の適応、施術法を知る。<br>3　重要な合併症・後遺症について知る。 | 講義 |
| | 49 | | | |
| | 40 | | | 講義 |
| | 41 | コーレス骨折 | 1　前腕遠位端部骨折の分類を詳細に知る。<br>2　Colles骨折の詳細を知る。<br>3　骨折別に所見の相違を理解する。<br>4　骨折の整復法及び原理を理解する。 | 講義 |
| | 42 | | 1　整復法を説明できる。<br>2　骨折治療上の注意点を知る。<br>3　保存療法・観血療法の適応について知る。 | 講義 |
| | 43 | その他の前腕遠位端部骨折 | 1　その他の前腕遠位端部骨折の概要を理解し説明できる。<br>2　保存療法・観血療法の適応について知る。 | 講義 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 3期 | 44 | 手根骨骨折 | 1　手部骨折の概要を理解し説明できる。<br>2　手部骨折治療上の注意点を知る。<br>3　保存療法・観血療法の適応について知る。 | 講義 |
| | 45 | 中手骨骨折 | 1　中手骨骨折の概要を理解し説明できる。<br>2　保存療法・観血療法の適応について知る。 | 講義 |
| | 46 | 指骨骨折 | 1 手指部損傷の概要を理解し説明できる。 | 講義 |
| | 47 | 手関節、手根中手関節脱臼 | 1　手関節、手根中手関節脱臼の概要を理解し説明できる。 | 講義 |
| | 48 | 中手指節間間節脱臼 | 1　中手指節関節脱臼の概要を理解し説明できる。<br>2　脱臼種別の整復・固定法を知る。 | 講義 |
| | 49 | 指節間関節脱臼 | 1　指節間関節脱臼の概要を理解し説明できる。<br>2　重要な合併症・後遺症について知る。<br>3　予後に関する事項を知る。 | 講義 |
| | 50 | | | 講義 |
| | 51 | 膝関節の軟部組織損傷 | 1　発生機序を理解し説明できる。<br>2　分類別の症状及びその特徴を理解し説明できる。<br>3　徒手検査法を理解し説明できる。<br>4　固定法・治療法の概要を理解し説明できる。 | 講義 |
| | 52 | | | |
| | 53 | | 1　分類と発生機序を理解し説明できる。<br>2　分類別の症状及びその特徴を理解し説明できる。<br>3　固定法・治療法の概要を理解し説明できる。 | 講義 |
| | 54 | | | |
| | 55 | 下腿骨骨幹部骨折 | 1　下腿骨幹部骨折の分類を理解し説明できる。<br>2　分類と発生機序を理解し説明できる。<br>3　特徴的な症状及び治療法の概略を理解し説明できる。<br>4　重要な合併症・後遺症について理解し説明できる。 | 講義 |
| | 56 | | | 講義 |
| | 57 | | | 講義 |
| | 58 | 下腿軟部組織損傷 | 1　分類と発生機序を理解し説明できる。<br>2　損傷部の病態を知り、分類別の症状及びその特徴を理解し説明できる。<br>3　徒手検査法を理解し説明できる。<br>4　固定法・治療法の概要を理解し説明できる。<br>5　保存療法と観血療法の特徴を理解する。 | 講義 |
| | 59 | 下腿軟部組織損傷 | | 講義 |
| | 60 | 試験 | | |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 【分野】 | 専門分野　柔道整復実技 | | | | |
| 【科目】 | 柔道整復治療法応用 | | | | |
| 【基本情報】 | | | | | |
| 配当年次 | 2 | 学年 | 担当教員 | 篠　弘樹/深澤　晃盛/紀平　晃功/千葉　真央/加藤　栄二 | |
| 単位数 | 5 | 単位 | | 実務経験 | 施術所勤務5年以上 |
| 開講学期 | 通年 | | 授業形態・回数 | 実技 | 75回 |
| 【授業情報】 | | | | | |
| 授業概要 | 担当の篠（整形外科勤務後柔道整復施術所を開業）、深澤（整形外科及び柔道整復施術所）、紀平（柔道整復施術所、スポーツトレーナーとしてスポーツチームに所属）のそれぞれの実務経験を活かし診察から評価そして施術への流れを実践的に行う。本時間では、骨折・脱臼・捻挫・挫傷に対する最適な、または教科書的な処置や保存療法について一方的に講義することを目的とせず、患者の主訴をもとに様々な損傷状態や疾患の可能性を模索し、判断する力を養う。そして保存療法で疼痛を後遺しないためには何が必要か、運動復帰までの道のりの作り方を論議していく。また、競技者特有の外傷・障害に対し予防対策を学ぶことで競技者に対し外傷予防や再発予防などを実施できるような知識・技術を学修する。 | | | | |
| 授業の一般目標（GIO） | 保存療法を完遂した症例を経過を見ながら追うことで、来院から終了までの転帰の中で柔道整復師に必要な保存療法の原則（今標準となっている事項＝当たり前のこと）について述べ、共通の認識として理解することができる。<br>競技者特有の外傷・障害に対し予防対策を理解し実践できる。 | | | | |
| 【担当教員から】 | | | | | |
| 教科書 | 包帯固定法　改訂第2版　（公社）全国柔道整復学校協会監修<br>柔道整復学・実技編　改訂第2版　（公社）全国柔道整復学校協会監修<br>柔道整復実技　新訂版　学校法人呉竹学園篇<br>競技者の外傷予防　（公社）全国柔道整復学校協会監修 | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 成績評価基準 | 評価の観点は<br>1）授業の理解と表現　2）知識の浸透度と理解度とし、<br>実技試験及び口頭試問で評価する。<br>またこの試験については臨床実習前施術実技試験を含む | | | | |
| 成績評価方法 | 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。<br><br>成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。<br>（1）A：100～90点　（2）B：89～70点　（3）C：69～60点　（4）D：60点未満 | | | | |
| 授業時間以外に必要な学修 | 教科書、授業で配付された資料を用いて授業内容の復習を行うこと | | | | |
| 履修にあたっての留意点 | 色々な科目で学習したことを統合して、患者来院から診察を一連の流れで追っていきます。具体例を挙げ、実際の場面をイメージしやすいように進めていきたいと思っています。臨床の大切さ、そして楽しさを感じてください。 | | | | |

【授業計画】

| 学期 | 回数 | 講義内容 | 到達目標(SBOs) | 講義形態 |
|---|---|---|---|---|
| | 1 | 捻挫の保存療法 | 1　捻挫患者の受療の流れが説明できる。<br>2　捻挫の保存療法における注意点を説明できる。 | 実技 |
| | 2 | 視診、腫脹のみかた、脈診 | 1　視診における注意点を説明できる。<br>2　腫脹の種類と特徴が説明できる。 | 実技 |
| | 3 | 触診、体表解剖、触診法 | 1　骨のランドマークが触診できる。<br>2　靭帯の走行が説明できる。 | 実技 |
| | 4 | 運動確認 | 1　運動検査の基本的事項を説明できる。<br>2　適切に運動検査を実施できる。<br>3　自然立位での評価を行うことができる。<br>4　動的アライメント評価を行うことができる。 | 実技 |
| | 5 | 捻挫と画像所見 | 1　捻挫患者における画像検査の意義が説明できる。<br>2　正常像と異常像が判断できる。 | 実技 |
| | 6 | 捻挫と画像所見 | | 実技 |
| | 7 | 徒手検査法 | 1　滑り運動、副運動を説明し、実践できる。 | 実技 |
| | 8 | 外固定法（理論編） | 1　固定素材の特徴を説明できる。<br>2　症例に合った素材を選択し、固定できる。<br>3　固定中の注意点について説明できる。 | 実技 |
| | 9 | 外固定法（実践編） | | 実技 |
| | 10 | 後療法：運動療法プログラムの組み方と実際 | 1　リハビリプログラムを作成できる。<br>2　高齢者及び競技者の外傷予防技術を実施できる。 | 実技 |
| | 11 | 後療法：拘縮、浮腫、異常経過 | | 実技 |
| | 12 | 治癒判定 | 1　治癒判定で考慮する事項を説明できる。<br>2　合併症について説明できる。 | 実技 |
| | 13 | 骨折の保存療法、受療の流れ | 1　骨折患者の受療の流れが説明できる。<br>2　必要事項を要領よくカルテに記載できる。<br>3　受傷原因を聴取できる。 | 実技 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 前期 | 14 | 問診 | 1　問診で聴取すべき項目を挙げられる。<br>2　問診の基本的技法を説明できる。 | 実技 |
| | 15 | 視診：骨折と変形について | 1　視診における注意点を説明できる。<br>2　外観から骨折が判断できる。 | 実技 |
| | 16 | 触診、体表解剖 | 1　触診の基本的事項が説明できる。<br>2　骨のランドマークが触診できる。<br>3　骨折外傷の触診ができる。 | 実技 |
| | 17 | 運動確認 | 1　運動確認の意義を説明できる。 | 実技 |
| | 18 | 骨折と画像所見 | 1　正常と異常が分かる。<br>2　計測の意義を説明し、実践できる。 | 実技 |
| | 19 | 徒手整復法 | 1　徒手整復操作の目的を説明し、実践できる。 | 実技 |
| | 20 | 外固定法（理論編） | 1　固定素材の特徴と扱い方を説明できる。<br>2　症例に合った固定素材を選択し、固定できる。<br>3　固定中の注意点について説明できる。<br>4　適切に紹介状を作成できる。 | 実技 |
| | 21 | 外固定法（実践編） | | 実技 |
| | 22 | 後療法：リハビリプログラムの組み方と実際 | 1　リハビリプログラムを作成できる。<br>2　高齢者及び競技者の外傷予防技術を実施できる。 | 実技 |
| | 23 | 後療法：拘縮、浮腫、異常経過 | | 実技 |
| | 24 | 治癒判定 | 1　治癒判定で考慮する事項を説明できる。<br>2　合併症について説明できる。 | 実技 |
| | 25 | 治癒判定 | 1　治癒判定で考慮する事項を説明できる。<br>2　合併症について説明できる。 | 実技 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 26 | 挫傷の保存療法 | 1　挫傷患者の受療の流れが説明できる。<br>2　挫傷の保存療法における注意点を説明できる。 | 実技 |
| | 27 | 視診、腫脹のみかた考え方 | 1　視診における注意点を説明できる。<br>2　周径を評価できる | 実技 |
| | 28 | 触診、体表解剖、触診法 | 1　筋の走行が説明できる。<br>2　筋の触診ができる。 | 実技 |
| | 29 | 運動確認 | 1　歩容から受傷部位を予測できる<br>【筋伸張法】<br>2　関節可動域を正しい肢位・軸で評価できる。<br>3　筋伸張を正しい肢位・軸で評価できる。 | 実技 |
| | 30 | 運動確認 | 【抵抗運動】<br>1　抵抗運動を正しい肢位・軸で評価できる。<br>2　筋出力をMMTとして評価できる。 | 実技 |
| | 31 | 挫傷と画像所見 | 1　挫傷患者における画像検査の意義が説明できる<br>2　MRIでの正常像と異常像が判断できる<br>3　超音波観察装置での正常像と異常像が判断できる | 実技 |
| | 32 | | | 実技 |
| | 33 | 徒手検査法 | 1　損傷した組織にストレスを加えられる<br>2　徒手検査から損傷の程度が判断できる | 実技 |
| | 34 | 外固定法（理論編） | 1　固定素材の特徴を説明できる。<br>2　症例にあった素材を選択し実践できる<br>3　固定中の注意点を説明できる | 実技 |
| | 35 | 後療法：運動療法プログラムの組み方と実際 | 1　リハビリプログラムを作成できる。<br>2　高齢者及び競技者の外傷予防技術を実施できる。 | 実技 |
| | 36 | 後療法：拘縮、浮腫、異常経過 | | 実技 |
| | 37 | 治癒判定 | 1　治癒判定で考慮する事項を説明できる。<br>2　合併症について説明できる。 | 実技 |
| | 38 | 試験 | 試験 | 実技 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 後期 | 39 | 脱臼の保存療法、受療の流れ | 1　脱臼発生から治癒までを時系列に整理できる | 実技 |
| | 40 | 問診 | 1　脱臼発生時の状況を整理できる | 実技 |
| | 41 | 視診:脱臼と変形について | 1　固有症状を解剖学的に説明できる | 実技 |
| | 42 | 触診、体表解剖 | 1　骨のランドマークを触診できる | 実技 |
| | 43 | 運動確認 | 1　弾発性固定の確認について説明できる | 実技 |
| | 44 | 脱臼と画像所見 | 1　脱臼の画像所見から損傷状態を説明できる | 実技 |
| | 45 | 脱臼と画像所見 | 1　合併損傷について説明できる | 実技 |
| | 46 | 徒手整復法(理論編) | 1　脱臼整復理論を説明できる | 実技 |
| | 47 | 外固定法(理論編) | 1　損傷に適した固定法の説明が出来る | 実技 |
| | 48 | 後療法:リハビリプログラムの組み方と実際 | 1　損傷状態を考慮した運動プログラムを作成出来る | 実技 |
| | 49 | 後療法:拘縮、浮腫、異常経過 | 1　異常経過を想定した後療法の組み立てが出来る | 実技 |
| | 50 | 治癒判定 | 1　治癒判定で考慮する事項を説明できる。<br>2　合併症について説明できる。 | 実技 |
| | 51 | | | |
| | 52 | 試験解説　Q&A | 1　試験での疑問・臨床での疑問を解決する | 実技 |
| | 53 | 捻挫に対する応用的固定法 | 1　前距腓靭帯損傷以外の固定法を知る | 実技 |
| | 54 | 捻挫に対するテーピング法 | 1　損傷組織に応じたテーピング法を選択できる | 実技 |
| | 55 | 関節拘縮に対する後療法 | 1　固定下で可能な運動を知る<br>1　関節拘縮に対する手技を知る | 実技 |
| | 56 | アライメントに応じた後療法(足) | 1　固内足に対する手技・運動療法を一知識として知る | 実技 |
| | 57 | | 2　回外足に対する手技・運動療法を一知識として | 実技 |
| | 58 | 臨床で遭遇する後遺症・異常経過 | 1　捻挫・挫傷における後遺症・異常経過の知識を知る | 実技 |
| | 59 | 臨床で遭遇する後遺症・異常経過 | 1　捻挫・挫傷における後遺症・異常経過の知識を知る | 実技 |
| | 60 | 臨床Q&A　患者さんからこんな質問がきたら? | 1　患者からの多様なニーズに応える知識、技術 | 実技 |
| | 61 | 保存療法の限界 | 1　保存療法の限界を説明できる | 実技 |
| | 62 | 徒手整復の考え方 | 1　損傷状態に合わせた徒手整復の説明が出来る | 実技 |
| | 63 | 外固定法 | 1　様々な外固定法についてその効果を説明出来る | 実技 |
| | 64 | 応急処置 | 1　応急処置について様々なアイデアをだせる | 実技 |
| | 65 | 症例検討 | 1　骨折患者を想定した徒手整復を説明できる<br>1　外傷患者を想定した外固定を説明できる | 実技 |
| | 66 | 症例検討 | 1　骨折患者を想定した徒手整復を説明できる<br>1　外傷患者を想定した外固定を説明できる | 実技 |
| 1期 | 67 | 競技者外傷予防の概要 | 競技者外傷予防の概要を理解できる。 | 実技 |
| | 68 | 外傷予防に必要なコンディショニングの方法と実際 | ストレッチングについて理解し実施できる。 | 実技 |
| | 69 | | ストレッチングについて理解し実施できる。 | 実技 |
| | 70 | | メディカルチェックについて理解し実施できる。 | 実技 |
| | 71 | | ベッドサイドでのエクササイズについて理解し実施で | 実技 |
| | 72 | | エクササイズについて理解し実施できる。 | 実技 |
| | 73 | | 運動療法を指導できる。 | 実技 |
| | 74 | 試験 | | 実技 |
| | 75 | 振り返り | | |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 【分野】 | 専門分野　臨床実習 | | | | | |
| 【科目】 | 臨床実習 Ⅱ | | | | | |
| 【基本情報】 | | | | | | |
| 配当年次 | 2 | 学年 | 担当教員 | 杉山　直人/早川　幸秀/丸山　純子/千葉　真央/加藤　栄二/池亀　耕太/紀平　晃功/田辺　耕太/高橋　光生 | | |
| 単位数 | 1 | 単位 | | 実務経験 | 施術所勤務5年以上 | |
| 開講学期 | 通年 | | 授業形態・回数 | 実習 | 外部：4日4施設<br>（1施設1日：8時間:32時間）<br>内部：14時間 | |
| 【授業情報】 | | | | | | |
| 授業概要 | 実務経験を活かし実践的な内容を含め授業を展開する。<br>柔道整復事業所及び医療施設等における柔道整復師の知識、技能、態度を見学実習することにより自ら進む柔道整復師像を捉える。また今まで学修してきた知識、技能がどのように使われているかを見学実習により捉えることで今後の学修意欲につなげていく。 | | | | | |
| 授業の一般目標（GIO） | 柔道整復事業所と医療施設等における柔道整復師の役割の違いを理解する。柔道整復師の知識、技能、態度を見学実習することにより自ら進む柔道整復師像を捉える。 | | | | | |
| 成績評価基準 | 実習指導者による評価、および実習おけるデイリーノート等により総合的に評価する。 | | | | | |
| 成績評価方法 | 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。<br><br>成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。<br>（1）A：100～90点　（2）B：89～70点（3）C：69～60点　（4）D：60点未満 | | | | | |
| 授業時間外に必要な学習 | | | | | | |
| 履修にあたっての留意点 | 臨床の場においては，まずは医療人としてふさわしい態度・服装・容姿が求められます。患者様の立場で，どのような態度・容姿が求められるか，自らも考えて実習に臨んでください。 | | | | | |

【授業計画】

| | | 見学及び実習内容 | 到達目標(SBOs) | 講義形態 |
|---|---|---|---|---|
| 1学期(学内実習) | 1～21 | 医の倫理 | 柔道整復師の職業倫理を理解する | 実習 |
| | | 態　度 | 実習生として相応しい身だしなみ(服装・容姿)ができる<br>実習生として相応しい挨拶と言葉遣いができる時間や約束事を守ることができる(規律性) | 実習 |
| | | | 実習指導者の指示に適切に応えることができる<br>実習先のスタッフと良好なコミュニケーションを築くことができる(協調性) | 実習 |
| | | | 実習に際して目的意識を持って臨むことができる(積極性)<br>利用者に不快感を与えない態度がとれる | 実習 |
| | | 守秘義務 | 守秘義務・個人情報に注意を払っている | 実習 |
| | | 付帯業務 | 施設や待合室などの清潔保持の意味が説明できる | 実習 |
| | | | 施設や待合室などの清潔保持ができる(責任性) | 実習 |
| | | 介　助 | 利用者の誘導ができる。 | 実習 |
| 通期(学外実習) | 22～45 | 実習施設への事前確認 | 実習をスムーズに行う為に事前確認をとる | 実習 |
| | | スタッフの身だしなみ。立ち居振る舞い。 | 自身の身だしなみと比較し不快感を抱かせない身だしなみを整え実習生として自覚を持ち行動する。 | 実習 |
| | | 診療前スタッフミーティングの状況 | 申し送り等のスタッフ間コミュニケーション内容を理解し医療事故・過誤等の防止について理解する | 実習 |
| | | 患者来院時の挨拶・配慮の仕方 | 患者来院時の挨拶・配慮を知り、実習生として挨拶、自己紹介ができる | 実習 |
| | | 患者の誘導の仕方 | 患者誘導の仕方を知り、安全にできる | 実習 |
| | | 患者とのコミュニケーションの仕方 | 実習生として患者に声かけをしコミュケーションがとれる | 実習 |
| | | 物理療法着脱時及びコミュニケーションの仕方 | 物理療法着脱時に不快感を与えない配慮を理解する。物理療法に対しての知識、患者に対しての説明する技能を理解する。 | 実習 |
| | | 手技療法施術時のコミュニケーションの仕方 | 手技療法施術時の医療事故等の防止策及び、不快感を与えない配慮を理解する。 | 実習 |
| | | 固定着脱時のコミュニケーションの仕方 | 固定着脱時に不快感及び患部に悪影響を及ぼさない配慮を理解し、助手として行動できるように準備する。 | 実習 |
| | | 会計時の対応 | 会計時ミスの防止について理解し施術録等の保管ができる。患者情報についての守秘義務を理解し行動できる。 | 実習 |
| | | 初診患者の対応<br>・予診表記入の説明の、診察、治療に対するインフォームドコンセント、施術内容、受領委任払いの説明及び会計等の仕方 | 初診患者と再来患者との違い、診察・施術、会計時等の対応を知る。 | 実習 |
| | | 振り返り | 施設での見学を通して柔道整復師の知識、技能、態度習慣の重要性を理解し能動的な学修ができる。 | 実習 |